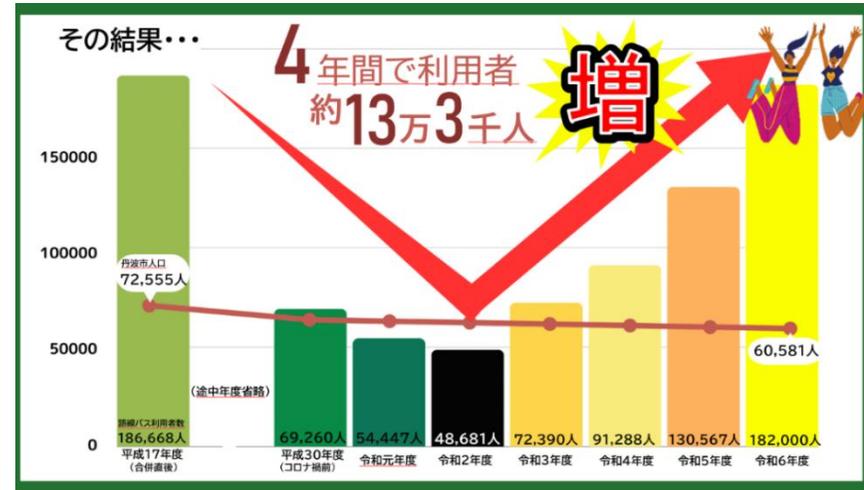


取組の概要

- ◆ 丹波市では路線バスの利用者が令和2年度は5万人を割り込むほどに減少しており、合併直後の平成17年度時点と比較すると約26%の利用者数になっていた。
- ◆ そこで丹波市では路線バス維持の取組として、市単独での補助や車両の無償貸与などを実施。加えて、県立の総合病院の開院に伴い、バス路線を再編し病院への乗り入れを増加させた。
- ◆ さらに、市内の小中学校の統合に際し、路線バスを利用した通学支援を行うと共に市内高校生に対しては路線バス通学定期券の購入補助を行い、利用者増加の支援を行った。
- ◆ その結果、令和6年度では路線バスの利用者数は18万人を越える人数となり、令和2年度から13万人以上増加させることができた。



1. 多様な主体の実質的参画

- ◆ 路線バスの再編に関しては、事業者任せにするのではなく丹波市も主体的に関わり進めている。
- ◆ 学生の路線バス利用のため、学校、保護者への積極的な啓発と、自治会関係者に協力を依頼して利用増進を行っている。

2. 創意工夫

- ◆ 路線バスの再編に際して、ほぼすべての路線バスが市内中心部にある県立病院を通過するように再編するとともに、鉄道との乗り継ぎ可能なダイヤに調整することで利用しやすいバス路線に再編した。
- ◆ 通学による学生利用者を取り込むために、市内の高校生に対して通学定期の購入補助制度を創設し利用促進を行った。
- ◆ 小中学校の統廃合により徒歩通学が困難になった学生に対しては、バス停の場所やダイヤの見直しを行い、合わせて通学支援を行うことで利用者増につなげている。
- ◆ 日常的な公共交通の利用を促進するために、小中学生を対象としたモビリティマネジメントを実施し、バス通学をしやすい環境作りを行っている。

3. 自立性・継続性

- ◆ 本取組の結果、一部路線系統では黒字化を達成しており、市の補助額の減額に成功している。
- ◆ 今後も学区拡大や統廃合に伴う路線バスを使用した通学支援を継続的に実施していくことで、人口減少に伴う利用者数の減少をカバーしていく。

